（別紙4）　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】(3ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2799200072		
法人名	株式会社　美咲		
事業所名	グループホームみさき中茶屋		
所在地	大阪府大阪市鶴見区中茶屋1-2-12		
自己評価作成日	令和2年9月26日	評価結果市町村受理日	令和5年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　FGビル　4階
訪問調査日	令和4年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成25年11月1日にオープンして、もうじき9年が経ちます。今年はコロナウィルス感染予防の為中々施設の外へ出て行事を行う事が難しかったため、室内で楽しんで頂けるレクに力を入れてきました。「今出来る事は限られているからこそ、笑顔で過ごしてもらえる努力を！」「五感で感じて頂ける努力を」スタッフと一丸となってさせて頂きました。また、出来るだけご入居者様やご家族様のご要望やご相談をお聞きさせていただけるように取り組んでおります。いつでも気軽に寄って頂けるような施設作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設以来9年のうち3年ほどをコロナ禍に見舞われ、築いてきた地域とのふれあいも中断され、ひとり一人の個性を尊重してのケアが館内だけのものに限られ、利用者が閉塞感、窮屈さに慣れてしまい自発性や暮らしへのこだわりが減少することを憂慮して、20歳代から70歳代の職員間の知恵と経験値を活かし、日常での暮らし方に工夫を重ねている。職員会議に全員参加への奨励（休日参加への報酬）や、虐待・身体拘束委員会で、日常での気づきからの具体例を討議し解決への方策を会議内容とし周知させることで、全員が日々の言動を反省し、認知症ケアの奥深さを学ぶ原資としている点を評価する。配食される食事内容について、限界があるなかで高齢者に適したものへのアレンジに苦労する職員集団にエールを送る。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に継続して掲示しており、職員は確認したうえで申し送りの時に、唱和し、日常業務に理念を実践できるようにしている。	開設時に職員で創り出した理念「笑顔とぬくもりのある毎日を送れるように、・あたたかな心と専門性を持って支援・1人1人の個性を尊重したケアを実践・地域とのふれあいが出来るように支援」を基軸に、コミュニケーション力を高め傾聴に心を砕き、日常での気づきを共有して個性豊かな暮らしを護り続けたいと努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナウィルス感染予防の為運営推進会議で情報の共有のみ実践している。	盆踊り、公民館での認知症カフェや100歳体操、バザーに参加などの交流は全てを中断している。だんじりが敷地内で休憩、3年ぶりの賑わいに利用者の笑顔が広がった。近時に町会会長からゲートボールへのお誘いがあったが見合わせている。会長からは情報提供など、いろいろな気遣いが寄せられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は実施できていない。今後は地域に向けて活かせていけるように取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の状況を報告し、もらった意見に対して、取り組みを行ったり、サービス向上に活かしている。	コロナ禍以降、ほぼ全てを書面会議とし、行事・入居者状況・ヒヤリハットや事故・虐待身体拘束委員会会議などを内容とする報告書を町会会長と地域包括センターに持参して意見などを聴収している。メンバーに地域からの参加者が町会会長のみとする点を課題とする。	運営推進会議により、地域からの意見などを運営に反映すると共に、認知症についての知見を広め、利用者が地域との触れ合いを深めて笑顔のある日々が送れるよう、地域からの参加者の拡充を図ることと、家族への報告書（会議録）の配布を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にこれといった取り組みは出来ていない。	公的扶助受給者の在籍で、関係部署との報告・連絡は欠かせず、その他業務上の件についても担当部署との関係は良好である。地域包括支援センターによる施設部連絡会の新人勉強会に参加（リモート）している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束をしないケアを実践している。しかし、玄関の施錠については離設などの危険性を考慮して常に施錠を行っている。	指針の下に虐待・身体拘束委員会を規定通り開催し、全職員に議事録の周知を図っている。会議内容に虐待になるか拘束に当たらないかなど日常での気づきとその対応を取り上げ、職員各自が自身の言動について気付く切っ掛けとなり、虐待と拘束について、また、認知症ケアへの理解を深めることに繋がるとしているとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日常的に職員の言動を注意し、職員同士の注意喚起も行っている。また研修等で理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学習する機会を設け、理解を深め今後も必要に応じて活用の検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について時間をとってわかり易く説明し理解して頂く様、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に来られた際や電話で状況を報告する際に意見や要望、苦情をいただくようにしており、すぐに改善できるように取り組んでいる。	面会中止の状況が続く中で、直接的には電話での連絡時を大事にして意見や要望を聴いている。面会に関する要望が主となっているが、法人の意向を説明して納得を得るよう努めている。毎月、居室担当者による個人の生活の様子と、管理者からの連絡を記した便りを送付して、家族の憂慮などに応えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や研修や日常的な業務の中で意見や提案を頂戴し、沿えるように取り組んでいる。	月1回の職員会議（休日での参加者に報酬有）とユニット会議での意見・提案については現場で対応するとともに、管理者は現場の課題を積極的に法人上部への申告により解決に繋げたいと努力している。個人的課題については、常に管理者からの面談を心掛けて適切に対応している。安全対策・防災対策・感染対策委員会などに夫々が属し、運営に関わる機会を有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修やチェックシートの活用にて、やりがいやスキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社や施設内での研修、勉強会等しているが、法人外の研修については乏しい状態である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会へ加入したがコロナウィルス感染予防の為現在は書面での活動報告書を参照している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのかかわりを重視し、不安や悩み事を伺い、関係性を築けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や電話での状況報告を密に行い、要望なども聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に見学していただいた際に、納得されるよう説明し本人、家族より情報を集めサービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活という基本をもとに職員一同取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まずは入居者本人のニーズを中心として家族の要望や意向も聴取し、関係づくりができるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時や入居前に思い出のものを聴取し、持参して頂いている。	高齢化や重度化により、馴染みとする人や場所への関心は殆ど聞かれない状況だが、面会中止もあるなかで友人・知人からの手紙や電話は届いている。携帯電話所持の2名は、職員の手助けで通話やメールをしている。各階でのそれぞれの催し、カラオケ・美空ひばりの映像・ゲームに、自由に参加しての顔馴染みが笑顔となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の尊厳を擁護しながら、互いの性格やプライドを理解し共同生活ができるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も意見や相談を常に承っており、できる限りのフォロー、アドバイスを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントの時に思いや希望などを聴取しており、できる限り本人にニーズに沿えれるように取り組んでいる。	入居前の履歴から得意・不得手などを知り、接遇時の表情の観察からの洞察と日常での呟きの聞き取りなどから、その人の本意とするところを見逃さぬよう、あたたかな心と専門性を持ってその人らしい暮らしを支援したいと努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや家族や医療への聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの日常を日々観察し、現在の状況をケアプランにも反映させている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のいま必要なことや介護者からの必要なことなどは意見会（ケアカンファレンス）を逐一行っており、現状に見合ったプランを作成している。	1ヶ月毎のモニタリング、3ヶ月毎にアセスメント、支援経過録とカンファレンスを基に、医師・看護師の所見を参考にして担当者会議（ケアマネ・管理者・職員）を設け、作成と見直しを行っている。状態変化に応じて随時の見直しがある。家族に送付し合意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人別の生活記録にて、気になった部分やケアプランの実践状況を確認し、現状に見合ったプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度管理者含めた職員同士話し合いを行い、リスクなども勘案し、できる限りニーズに沿えれるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、地域の情報が多くわかるようになってきたので、今後は地域との交流を深めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の意向を踏まえて医療の処置を施している。以前からのかかりつけ医からのサポートも支援を行っている。	協力医院の内科の訪問診療は利用者・家族の同意を得て全員が受け、歯科（口腔ケアも含む）と眼科は希望者が訪問診療を受けている。心療内科の受診（2名）は家族の同行で受け、1名は事業所が代理受診で対応し、医師に状態説明を行っている。訪問看護師による身体チェックが行われ、主治医との情報共有はFAXで連携している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な健康管理と必要時に相談する事により、医療的な支援をさせて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時は面会に行き、本人、家族と話し、退院後に生活について、病院関係者とも情報交換するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた段階で協力医療機関医師と相談、指示を受け、家族、職員間で困難になりそうな事を具体的に話し合いようにしている。	入居時に「看取り介護指針」文書で説明し、同意書を交わしている。身体状態悪化時には管理者・主治医・家族間で話し合うと共に担当者会議でケア内容を検討し、それに即した計画作成を行い、最善で穏やかな最期を迎えられるよう努めている。可能な限り家族の協力も得ながら、今年度は1名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに従い、急変時、事故発生時には、速やかに関係各所と連絡を取り、適切に 対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練の実施及び運営推進会議にて避難についての協力を呼び掛けている。	日中・夜間想定で年2回自主訓練を実施し、法人の全体会議で南海トラフ地震対策の訓練のあり方と意識の徹底を図っている。備蓄品のリストに基づいて準備し食料は3日分を備えている。コロナ禍で地域住民参加の運営推進会議開催や交流もなく、協力の呼びかけや訓練参加が難しい現状となっている。	寝屋川がすぐ近くにあり、水害や大型地震の被害の甚大が懸念される。事業所独自の避難経路・誘導を全体で検討し、2024年迄の事業継続計画策定化に向けて、備蓄の日数分の見直しや地域との協力体制の構築及び不測の事態にも、可能な限り短時間で復旧させる体制作りに期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を保ったうえで職員には研修などにて接遇の勉強会をおこなっている。	理念にある「一人ひとりの個性を尊重したケアを目指します」を常に意識しながら適切な丁寧語で接し、行動の遮りに留意している。不適切な場合は管理者が注意を促したり、職員間で注意し合っている。トイレ・浴室のドアの開閉時にはプライバシー保護と羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にコミュニケーションは行っており、本人が選択できるような環境づくりを取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに職員は合わせて、業務を行い、希望やニーズ抽出に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理容や希望に合わせてその人らしいことが実現できるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が得意な人には職員と一緒に料理を実施し、職員の食事は利用者と一緒に取り、雰囲気作りに取り組んでいる。	献立・食材は配食業者に委託し、調理は職員が交代で行っている。利用者は個々の力を活かし、調理・盛り付け・配膳・後片付け等食事一連に関わっている。食事レクリエーションで好みのもの（たこ焼き・ホットケーキ・おはぎ）を職員と一緒に作り、季節の干し柿作りを楽しんでいる。一般食を提供する業者の献立は、香辛料のきついものや献立に偏りがある。	栄養を摂取するだけではなく、歓びや楽しみがある食事内容と形態が重要で、持病（腎臓病・糖尿病）の人や高齢者に配慮した食事の提供を目指し、配食業者と密に連携を取り合い美味しく・楽しい食事となるよう期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量は生活記録用紙で個々にチェックしている。 一人ひとりの好みや状態に合わせた食事の提供　栄養バランスを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科にて治療や助言を行っており、日常的に個々の口腔ケアのやり方でケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を目指しており、個々のパターンを把握し、職員が工夫して支援を行っている。	寝たきりの人（2名）以外の25名は布パンツ・リハビリパンツ及びパット併用と使用は様々だが、日中はトイレでの排泄を支援している。立位での排泄が維持できる支援や、適量の水分補給やヨーグルトを食して薬剤になるべく頼らない排便に努めている。吸引力のあるパットや2枚重ねで対応し安眠重視を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの一日の生活の中で食事や水分量・排泄リズムなどを検討し、自然排便できるよう医療とも相談しながら取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やペースに合わせた入浴ができるよう支援している。	週2回の午前中の入浴を基本としている。二方向介助可能の浴槽で、重度の人はシャワーチェアで対応し、入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。入浴拒否の人には、日時の変更や相性の良い職員と交代して、無理強いせず寛いだ雰囲気での入浴支援を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリを重視し、その上で個々の状態把握し、その人の安心を提供できるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員が見やすいところに綴じており、職員把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし、役割を持ってもらい、日々楽しんでもられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って家族様とも相談を行い、個別に対応できるように支援を行っている。	コロナ禍で外出は規制しているが、事業所敷地内での散歩や日光浴で気分転換を図っている。又広く開けたスペースを利用して、バーベキューやミニ運動会を行い、ストレス発散と五感刺激の機会を作っている。コロナ沈静後は近くの公民館や買い物・ランチバイキングに出かけ、車で遠出の外出も行いたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や能力を考慮して管理できる方には所持し、使えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力を考慮して、電話や手紙を使って家族などと交流を図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や時間の流れが把握できるような取り組みを行い、個々の思いや感情に対していい刺激になるように支援している。	居間兼食堂は明るく広い。空気清浄器を設けて消毒・換気を頻回に行い環境整備に配慮している。リビングの壁面に職員と一緒に作った季節の貼り絵・折り紙・日常写真を飾り、和やかな雰囲気となっている。利用者間の関係性に配慮したテーブル配置や、リビング一画にソファを設置して個別で寛げる空間を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	互いの関係性などを考えて座席の配慮を行っており、状況に応じてレイアウトの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・入居者と相談したうえで慣れた家具やなじみのものを持参して頂けるように取り組んでいる。	クローゼット・ベッド・エアコン等が設置され、慣れ親しんだタンス、小物、写真、自作の絵画・書道を持ち込み、その人らしい過ごしやすい居室となっている。高さのある家具は転倒防止の安全対策を施し、動線確保に留意して安心して居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人のできることを理解し、必要であれば福祉用具などを活用し安全に生活が送れるように取り組んでいる。		